

平成 29・30 年度 土木学会複合構造委員会 第 9 回幹事会議事録

日 時：平成 30 年 8 月 30 日（木）14:00～17:00

場 所：鹿島建設株式会社 北海道支店

出席者：西崎委員長，平村副委員長，溝江幹事長，大久保幹事，葛西幹事，川端幹事，北根幹事，
斉藤（成）幹事，齋藤（隆）幹事，平幹事，滝本幹事，中村幹事，仁平幹事，橋本幹事，
広瀬幹事，牧幹事，松本幹事，杉岡事務局

配布資料：

- 幹 9-0 平成 29・30 年度複合構造委員会第 9 回幹事会議事次第
- 幹 9-1 平成 29・30 年度複合構造委員会第 8 回幹事会議事録（案）
- 幹 9-2 委員会予算執行状況
- 幹 9-3 （欠番）
- 幹 9-4 （欠番）
- 幹 9-5 第 7 回 FRP 複合構造・橋梁に関するシンポジウム開催のお知らせ
- 幹 9-6 （欠番）
- 幹 9-6 （欠番）
- 幹 9-7 『第 2 回 若手技術者のための温故知新セミナー ～鋼とコンクリート～』開催報告
- 幹 9-8 （欠番）
- 幹 9-9 複合構造委員会 出版物販売状況
- 幹 9-10 （欠番）
- 幹 9-11 継続教育委員会の設立について
- 幹 9-12 構造系 3 委員会・連絡会議からの提言に向けて
- 幹 9-13 複合構造委員会の小委員会一覧
- 幹 9-14 H101 複合構造標準示方書小委員会
- 幹 9-15 （欠番）
- 幹 9-16 H107 グリーンインフラとグレーインフラの融合に関する研究小委員会
- 幹 9-17 H151 複合構造物の疲労照査法に関する調査研究小委員会
- 幹 9-18 H214 維持管理を考慮した複合構造の防水・排水に関する調査研究小委員会
- 幹 9-19 （欠番）
- 幹 9-20 （欠番）
- 幹 9-21 （欠番）
- 幹 9-22 （欠番）
- 幹 9-23 H219 床版取替における既設合成桁橋の設計・施工技術に関する研究小委員会
- 幹 9-24 新分野設立要望書
- 幹 9-25 プレキャスト工法有効利用委員会

議事内容：

1. 委員長挨拶

開会に先立ち、西崎委員長より挨拶があった。

2. 複合構造委員会第 8 回幹事会議事録案確認（資料 幹 9-1）

資料に基づき、溝江幹事長から説明された。

- ・以下の点を修正の上で承認された。

3. 複合構造委員会第3回委員会議事録案確認（資料 幹 8-2）
（誤）溝江委員長より， → （正）溝江幹事長より，
3. 平成 30 年度委員会予算執行状況（資料 幹 9-2）
資料に基づき，溝江幹事長から説明された。
・温故知新セミナーの両講師への謝金を予備費より支出した。
4. 平成 30 年度全国大会・年次学術講演会
溝江幹事長から説明された。
・研究討論会後のセッションはオープンホールから N 棟での実施となり連絡が直前となった。
・セッション参加者の概算速報値として，初日 AM は 50 人程度，それ以降は 30 人程度である。正確な参加者数は，実行委員会に問い合わせることとする。
・複合構造委員会への実施報告は広瀬幹事に代わり斉藤（隆）幹事が行う。
5. 平成 30 年度全国大会・研究討論会
溝江幹事長から説明された。
・会場に入りきれないほどの盛況であった。
・今年度実施したことにより，来年度は複合構造委員会が企画する研究討論会は実施できない。
6. 第 7 回 FRP 複合構造・橋梁に関するシンポジウム（資料 幹 9-5）
資料に基づき，溝江幹事長から説明された。
・学会誌 9 月号に会告を掲載する。
・8/30 現在で投稿済 10 件程度，残り 20 件程度となっている。
・9/13 に小委員会を実施し、パネル展示の内容や当日の予定を確認する。
・開会挨拶は西崎委員長、閉会挨拶は松本小委員会委員長とする。
・大会終了後に土木学会論文集特集号への推薦論文を決定する。
7. 第 2 回日中シンポ準備状況報告
溝江幹事長から説明された。
・橋梁分野では 20 名弱の参加者があり，概ね予定通りの参加人数となった。
8. 第 2 回温故知新セミナー 開催報告（資料 幹 9-7）
資料に基づき，斉藤（隆）幹事から説明された。
（セミナーについて）
・出席者数は 93 名，産官学満遍なく参加していた印象。
・若手技術者が数多く参加していた印象，講師からも好評であった。
・セミナーや懇親会をスムーズに運営するために，登録時に参加理由や年齢を聞くのがよい。
・事前に集約した質問のうち内容が発散していたものもあった。質問の質を上げるように質問のサンプルを提示する必要がある。なお，当日会場における質問は 2 件であった。
・セミナーの配布資料は A4・1 枚程度（講師の経歴程度）で問題ない。
・土木広報センターからのマスコミへのプレスリリースの効果がみられ，建設通信新聞に掲載された。編集者が参加していた「橋梁と基礎」10 月号にも掲載される予定。
（懇親会について）
・講師含む参加者数は 29 名。
・今年度の実績である 6,000 円/人は高いと感じる，参加費を安くするのがよい。

- ・セミナー参加登録時に懇親会参加の可否を登録してもらうのがよい。
- ・土木学会で懇親会を行うことも可能であり、会場を例えば E・F 会議室とすれば、準備をスムーズに進めることが可能。土木学会施設内へのケータリングも可能。
- ・委員会から懇親会費を補助することはできない。

(今後の対応について)

- ・セミナー準備は半年程度必要であるため、来年 1 月から準備を開始し、8 月以降の実施が妥当。それより早い実施は困難。
- ・タイトル、講演者、実施時期については継続して検討する必要あり。企画 WG で検討する。

⇒幹事会終了後、西崎委員長から

“若手技術者のための複合構造セミナー”のタイトル名がいいのではという提案あり。

9. 土木学会論文集 A1 特集号：複合構造

橋本幹事から説明された。

- ・9/12 に小委員会を実施し、今後のスケジュール等を確認する。
- ・投稿論文は FRP シンポの実施時期を考慮し、11 月初旬から 12 月中旬まで 1 か月程度募集する。
- ・委員会報告は H106 (FRP による補修・補強指針作成小委員会)。
- ・招待論文は過去の資料などを踏まえ、小委員会内で優先順位を設定して依頼する予定。

10. 出版関係報告 (資料 幹 9-9)

資料に基づき、平幹事から説明された。

- ・前回幹事会から大きな進展はない。
- ・H212 委員会 (複合構造物の耐荷メカニズム研究小委員会) が謹呈用として用意した複合構造レポートを杉岡事務局より複合構造委員会委員へ送付する。
- ・原価回収部数に達していない書籍は、引き続き、複合構造委員会主催の講習会等で販売していく。

11. 書籍英訳化 状況報告

溝江幹事長から説明された。

- ・完成を目指して引き続き作業する。

12. 継続教育小委員会の設立 (資料 幹 9-11)

資料に基づき、中村幹事から説明された。

(設立する会の運営について)

- ・温故知新 WG と e-ラーニング WG を設置するのがよい。メンバーとして、企画 WG, 「基礎からわかる複合構造」作成小委員会が参加するとともに、経緯を知った関係者も加えるのがよい。
- ・各種講習会の企画・運営を行う企画講習会 WG については、e-ラーニングに関する活動がある程度進捗した後に設置を検討する。

(e-ラーニングについて)

- ・e-ラーニングは、現時点で、委員会活動度の評価対象外である。
- ・e-ラーニングは、講習会等に参加が難しい地方の会員への成果の還元という観点もある。
- ・e-ラーニングの資料レベルが講習会と同様であることを踏まえ、有料・無料を含めた、視聴料についての検討を行うのがよい。
- ・e-ラーニングの資料については、外部委託を含めた資料作成方法や、資料作成者や講師への謝金の有無についても検討する必要がある。

(休 憩)

13. 構造系 3 委員会・連絡会議（資料 幹 9-12）

資料に基づき、斉藤（成）幹事から説明された。

（全体について）

- ・構造工学委員会から意見照会が来ている。鋼構造委員会はすでに返信しており、複合構造委員会からも返信する必要がある。
- ・行事や委員募集など、必要に応じて情報共有をするのがよい。

（応募型研究委員会への活動費支援について）

- ・床版に関する研究等、同様のテーマが各委員会で立ち上がっている状況ではあるが、複合構造委員会は他の委員会と切り口が違う観点で活動している。仮に他委員会とテーマが重複しても、当該委員会の意思であれば問題ない。
- ・3 委員会で合同して実施する事項はテーマや内容による。必要に応じて合同で活動するのがよく、合同での活動自体を目的にすると、いずれ苦しい運営になる。そのようなことから、例えば、重点研究課題を利用した連携は効果的である。
- ・成果を求める観点から委員長などを年齢で縛る必要はない。あくまで人材による。
- ・他委員会と予算規模が異なることもあり、意見照会にあるような予算での対応は難しい。

（委員会 HP について）

- ・3 委員会で HP のディレクトリ等を合わせるのは、技術的、労力的に厳しい。委員の公募や行事などの情報共有の観点から、リンクを張る程度であれば問題ない。3 委員会の関連事項に絞った合同のニュースレターなどの取り組みもいいのではないだろうか。

14. 新分野「横断分野」の設立について（資料 幹 9-24）

資料に基づき、溝江幹事長から説明された。地震工学委員会や原子力土木委員会などの 4 委員会が連合し「X 分野：10 分野」の新設を計画している。

- ・複合構造委員会として反対する理由はない。
- ・分野を横断した活動は、上記 4 委員会でのみ行われているわけではない。学会全体として別の階層での議論が必要なのではないか。

15. 小委員会報告審議（資料 幹 9-13）

(1) H101 複合構造標準示方書小委員会（資料 幹 9-13）

斉藤（成）連絡幹事より報告された。

- ・体系や構成の大幅な変更を想定しており、委員会での報告内容にある出版の延期を確認した。

(2) H106 FRP による補修・補強指針作成小委員会

中村連絡幹事より報告された。

- ・7/31 に講習会を開催し 70 名程度の参加があった。同日に委員会を開催し活動を終了した。
- ・現在、報告書の正誤表を作成中。講習会で受けた質問は、質問者に内容を確認中。内容の公表も含め検討する。
- ・北海道、関西、九州での地方開催は年明けを目途に調整中。セメント系材料の補修・補強委員会との共催を予定。なお、関西は講習会の支部開催の実績がないため、本部開催を予定。参加者数はコンクリート委員会と折半。

(3) H107 グリーンインフラとグレーインフラの融合に関する研究小委員会（資料 幹 9-16）

資料に基づき、溝江幹事長より報告された。

- ・8/22 に第2回幹事会を開催し、各WGの活動方針を確認。
 - ・第2回委員会は、大分県中津が第1候補、幹事団の日程の関係で、予定していた11/22・23を変更する可能性あり。
- (4) H151 複合構造物の疲労照査法に関する調査研究小委員会（資料 幹9-17）
資料に基づき、溝江幹事長より報告された。
- ・8/7 に第3回委員会を開催。
 - ・10/9 に第4回委員会を開催予定。
- (5) H214 維持管理を考慮した複合構造の防水・排水に関する調査研究小委員会（資料 幹9-18）
資料に基づき、溝江幹事長より報告された。
- ・7/27 に第10回委員会を開催。
 - ・12月に第11回委員会を開催する予定。
 - ・JSSC2018に研究成果の一部を投稿した。
 - ・来年度、複合構造レポートの出版を予定。販売希望部数は500部。
- (6) H215 複合構造におけるコンクリートの収縮・クリープの影響に関する研究小委員会
川端連絡幹事より報告された。
- ・1月に報告会を開催する予定。
- (7) H216 複合構造物の構造検査と性能評価に関する研究小委員会
溝江幹事長より報告された。
- ・ブライント試験については点検結果を集計中、今後解析を実施する予定。
- (8) H217 コンクリート充填鋼管部材の活用に関する調査研究小委員会
平連絡幹事より報告された。
- ・3つのWG活動を開始した。
 - ・報告書の出版の有無は来年度検討する。
- (9) H218 FRP 複合構造の設計・維持管理に関する調査研究小委員会
橋本連絡幹事より報告された。
- ・11月に委員会を開催予定。
 - ・小委員会の延長を想定しているため、来年度の報告書出版はない。
- (10) H219 床版取替における既設合成桁橋の設計・施工技術に関する研究小委員会（資料 幹8-24）
資料に基づき、溝江幹事長より報告された。
- ・8/9 に第1回委員会を開催。
 - ・11/29 に第2回委員会を開催予定。

16. その他

(1)平成31年度 重点研究課題について

- ・来年度の重点研究課題は、事務局から応募の連絡が届いた時点で、複合構造委員会委員に提案を依頼し、提案があった場合に応募を検討する。
- ・また、構造系3委員会の連携など、他委員会との連携も考えられる。

(2) プレキャスト化に関する検討委員会の設置（資料 幹 9-25）

資料に基づき、斉藤（成）幹事より説明された。

- ・ 150 番台委員会での 1 年間または 2 年間の検討を想定。
- ・ 委員長，幹事長，幹事等の人選については現在検討中，今後候補者に了解を得る予定。
- ・ 単なる場所打ちの置き換えでないという明確な観点で，設計や施工上の課題やメリットを抽出する委員会。
- ・ コンクリート委員会にもプレキャストに関する同様の委員会があるが，鉄骨の使用や FRP の可能性についても検討するなど，委員会自体の目的が異なる。
- ・ 次回委員会の設立申請に向け，引き続き，委員会設立に関する資料を取りまとめていく予定。

(3) 次回幹事会について

西崎委員長より，次回の第 10 回幹事会（10 月 23 日を予定）は，所用により開催日を変更する可能性があるとの連絡があった。

以上

（記録・文責：仁平）